

平成28年10月8日(土)

とうこうじ あと

東光寺跡 現地説明会資料

調査場所 京都市舞鶴市字京田小字東光寺

調査期間 平成28年5月26日～平成28年10月30日(予定)

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

東光寺跡は、舞鶴市教育委員会の遺跡分布調査で確認された中世の遺跡です。地元の伝承と小字名の東光寺から「東光寺跡」と名づけられました。また、今回の調査で新たに発見された古墳は、東光寺古墳と命名されました。

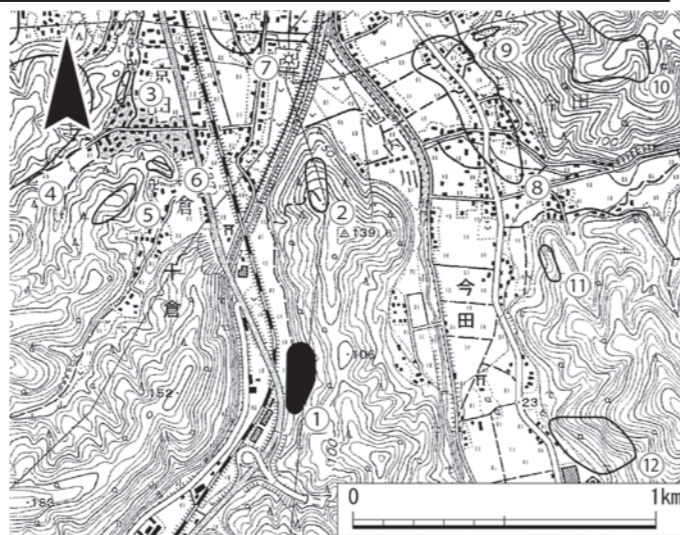
今回の発掘調査は、西舞鶴道路事業に先立ち国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所の依頼を受け実施しています。

東光寺跡は、西舞鶴に向かって開く谷を流れる伊佐津川右岸の丘陵斜面に立地しています。東光寺古墳のある丘陵の先端部には山崎古墳群があります。東光寺跡の面している谷には、現在、国道27号線やJR舞鶴線が通っており交通の要所となっていますが、調査地の北に「田邊大橋ヨリ一里」と刻まれた石碑のある一里塚があることから、古くから街道が通っていたことが分かります。

2. 調査の概要

発掘調査前の地形観察では、調査区外の標高35mあたりに広い平坦面があり、さらにその下位に大小4か所の平坦面を確認しました(第2図)。丘陵上位に平坦面A(調査区外)、下位に平坦面B・C・D・Eがあります。今回はB～Eを対象に調査を実施し、それぞれの平坦面で遺構や遺物を検出しました。谷部に設定した1・2トレンチでは遺構・遺物を見つけることはできませんでした。

(1) 中世の遺構・遺物



第1図 調査地位置図

(国土地理院 1/25,000「舞鶴」、「梅迫」より作成)

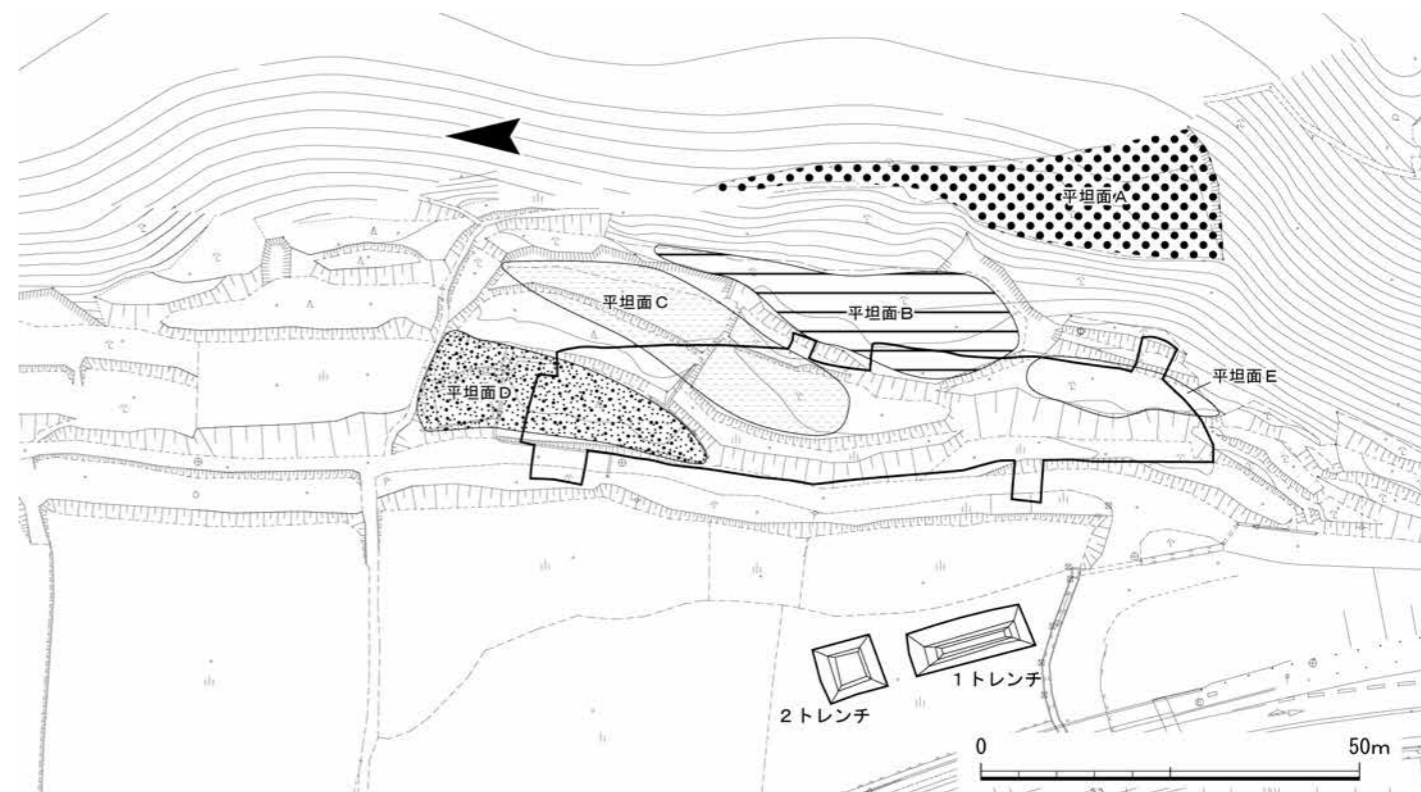
1. 東光寺跡 2. 山崎古墳群 3. 正勝神社1号墳・2号墳
4. 女布城跡(白雲山城) 5. 京田城跡 6. 京田丸山古墳群
7. 七日市遺跡 8. 今田遺跡 9. 万願寺古墳群
10. 今田城跡 11. 今田下村支城跡 12. 池内遺跡

平坦面B 寺院に関わる建物などは検出できませんでしたが、出土遺物から平坦面Bが12世紀以降に造られたことがわかりました。

平坦面C 人為的に盛られた締まった地層を確認しており、建物を建てるための整地土と考えられます。後世の耕作によって削平されていますが中世段階に造られたと考えられます。整地層上面では、石列SX03、下層で溝SD05を検出しました。

石列SX03 石を積み上げた石列で長さ3m、高さ50cm程度が残っていました。

溝SD04 検出全長6.0m、深さ0.6mの溝で、中には人頭大の石が散乱しており、自然石に混ざって墓石・五輪塔の一部やすり鉢、



第2図 東光寺跡調査範囲(1/1,000)

土師器皿がみつかりました。

溝SD05 整地層を除去して検出した東西方向の溝で、暗渠あんきょと思われます。検出全長17.0m、深さ1.5mを測り、埋土には礫れきが多く含まれています。

平坦面D 平坦面Dでは埋没していた段差を検出し、現地形が後世の改変であることがわかりました。平坦面Dでは、柱穴や土坑を10か所程度検出しましたが、建物等は復元できませんでした。

(2) 古墳時代の遺構・遺物

平坦面Bの西端で古墳(東光寺古墳)を検出しました。東光寺古墳は、墳丘の大半が中世の平坦面造成によって壊されていますが、横穴式石室(SX01)と墳丘を区画する溝(SD02)を検出しました。古墳の規模は溝の位置から考えて直径12m程度の円墳と思われます。

遺体の埋葬された部分は横穴式石室で、長さ4.85m、埋葬空間である玄室げんしつは長さ2.4m、幅1.35mで、東側が広く造られています(左片袖式)。玄室に繋がる羨道部せんどうは長さ2.4m、幅0.8mを測ります。遺物は玄室の奥側と東側の袖部分でまとまって出土しました。遺物には古墳時代後期の須恵器杯身・杯蓋・壺、土師器壺など

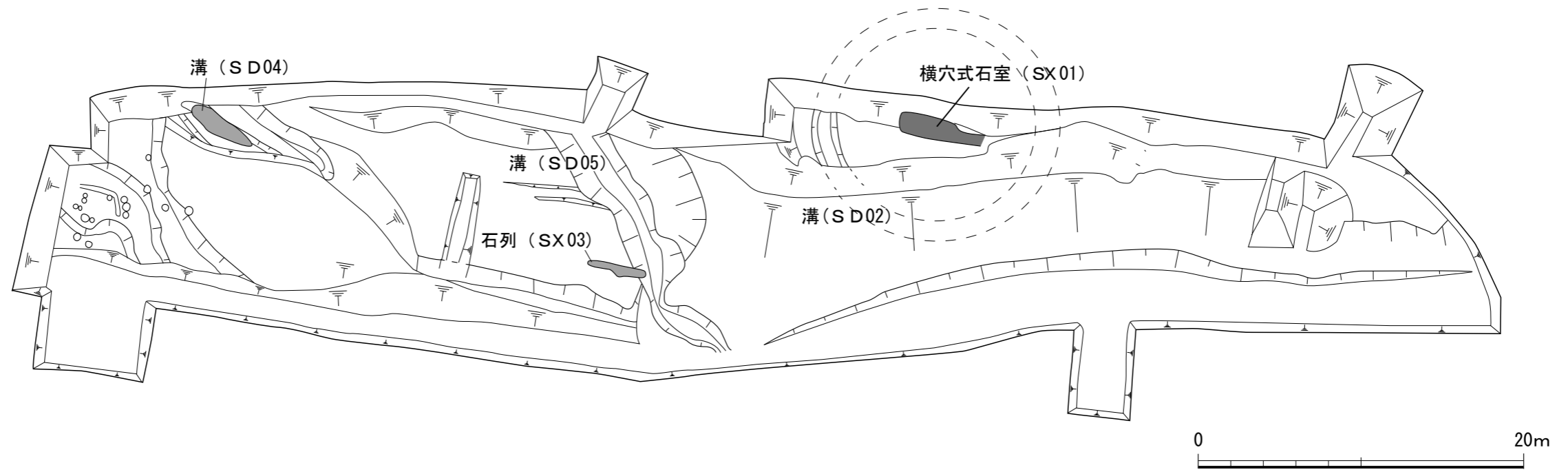
があります。

調査区の南側の平坦面Eで、古墳時代前期の土器が出土しましたが、明確な遺構は検出できませんでした。

3. まとめ

今回の調査で以下のことがわかりました。

- (1) 平坦面Cで暗渠及び造成土と石列の一部を、平坦面Dで柱穴の一部を確認しており、中世の遺構の存在が確認できるようになりました。墓石などの遺物はありますが、骨や遺体を納めた穴などが無いことから、大規模な墓地ではなく、寺院跡本体である可能性が高いと考えています。
- (2) 出土遺物から13世紀段階には平坦面を造成している可能性が考えられ、16世紀以降の遺物が出土しないことから、16世紀段階にはこの場所が利用されなくなったことがわかりました。
- (3) 中世の造成以前に、古墳時代前期と後期に土地利用されていました。後期には横穴式石室を持つ古墳が造られました。
- (4) 横穴式石室は6世紀中頃の片袖式で角礫を積み上げてていねいに造られています。出土遺物は土器と刀子(小型のナイフ)だけでしたが、古墳が交通の要衝に立地していることは注目されます。



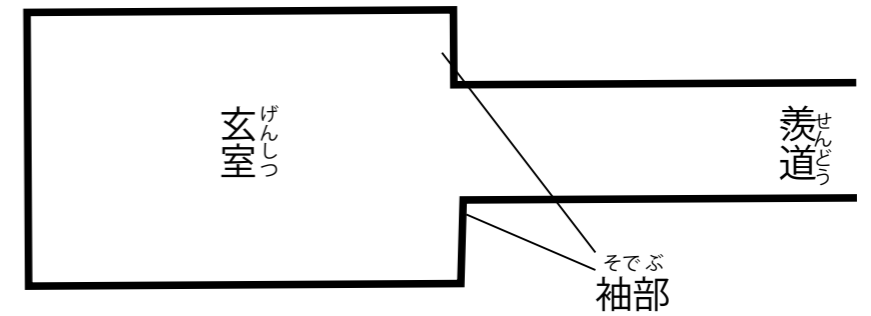
第3図 東光寺跡・東光寺古墳 遺構図



平坦面C全景 (北西から)



東光寺古墳石室全景 (西から)



横穴式石室の各部位の名称



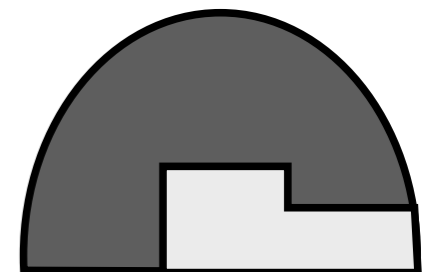
平坦面C石列SX03・溝SD05 全景 (北から)



東光寺古墳 石室全景 (南から)



東光寺古墳遺物出土状況 (北西から)



横穴式石室断面模式図